

事業区分 青少年教育指導者等への養成事業

事業名 阿蘇ボランティア入門塾②

- [ 主催 ] 国立阿蘇青少年交流の家
- [ 後援 ] 熊本県教育委員会
- [ 期日 ] 令和3年9月18日(土)～19日(日)【1泊2日】
- [活動場所] 国立阿蘇青少年交流の家
- [ 参加者 ] 18名 (大学生9名 高校生9名)
- [ 講師 ] 高見 大介 氏 (日本文理大学人間力育成センター長)  
薄井 良文 氏 (Waku Waku OFFICE あそBe隊 代表)  
秋山 洋 氏 (国立阿蘇青少年交流の家次長)
- [担当職員] 4名
- [ボランティア] 4名

1 趣 旨

青少年教育施設におけるボランティア活動の基礎を培い、ボランティアとしての態度や能力を育成する。

2 目 標

- (1) 30名以上のボランティア登録を確保するとともに、登録者がその後の活動に積極的に参加する。
- (2) 事業への満足度4点満点中平均3.5以上と回答する。

3 事業展開

研修プログラム

	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
9月18日(土)							受付 開会式	講義① 青少年教育	演習① ボランティア活動の技術 「オリエンテーション」	講義② ボランティア活動の意義	夕食	演習② ボランティア活動の技術 「チャレンジゲーム」	ふり返り・入所OR	入浴	就寝準備	就寝

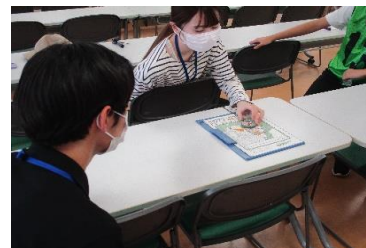
	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
9月19日(日)	就寝	起床、準備 演習③ボランティア活動の技術「保撮」	朝食 演習③ボランティア活動の技術「清掃」	退所点検	講義・演習① 安全管理		昼食	講義③ 青少年教育施設 の現状と運営	講義④ 青少年教育施設 におけるボランティア活動		閉会式	解散				



【開会式での自己紹介】



【2日間で学びたいこと】



【シルバコンパスの使い方】



【オリエンテーリング】



【チャレンジゲーム】



【朝のレクリエーション】



【安全管理】



【先輩の経験談】



【グループディスカッション】

## 4 成果と課題

### (1) 成果

- 事業への満足度3.9(4点満点)という高い結果を得ることができ、2回の入門塾を合わせて70名の法人ボランティアを確保することができた。「自分にできることを増やすチャンスがいただったので、どんどん生かしていきたい」「早速きりキャンパスに申し込みたい」「たくさんの経験、阿蘇の景色、きれいな施設なので活動しないという選択肢がない」など、今後のボランティア活動に意欲をもたせることもできた。
- 今回、チームビルディングをより意識した構成にしたところ、「仲間がいることの重要性に気づかされた」「いろいろな人と関わって楽しかった」「自分がこんなにもすぐに他の人と仲良くなれるということに気づけてよかった」「参加することによってこんなにも世界が広がるんだと思った」など、人との関わりの中で成長していくことの大切さを体験させることができた。
- 「細かい変化に気づいてくれる運営ボランティアの姿がかっこよく、尊敬する部分があった」「笑顔で声をかけ、話し方も優しく、私もこんな人になりたいと思った」「自分もこんな風に社会的に成長したい」「先輩方の熱い思いを聞いてボランティアの素晴らしさに気づけた」など、ボランティアが運営を行い主体的に参加者に接することで、参加者は具体的なイメージをもつことができた。

### (2) 課題

- ボランティアとして子供たちに指導するための事業ということを意識づけるためにも、初めにどんな活動をするのか見通しをもてるようなプログラム編成にするとともに、「時間を守らせる」、「施設をきちんと利用させる」といったことを意識づけられるようなスタッフの関わり方についてしっかりと共通理解する必要がある。